

結核とBCGワクチン接種について

監修 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨 先生

① 「結核」という病気について

結核は、結核菌が人から人へ感染することで起こります。

わが国の結核患者はかなり減少しましたが、高齢者を中心に1万5千人程度の新規患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。

また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。特に乳幼児は抵抗力が弱いので感染すると、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性もあります。

② BCGワクチンについて

BCGワクチンはウシ型結核菌を弱毒化してつくった生ワクチンです。

BCGワクチンの接種方法は、管針という器具を上腕外側のほぼ中央部の2箇所押し付けて接種します。

それ以外の場所に接種するとケロイドなどの副反応が出る可能性がありますので、絶対に避けなければなりません。

接種したところは、自然に乾燥させてください。10分程度で乾きます。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種したところをこすったり、ひっかいたりしないでください。

③ BCGワクチンの定期接種の時期

生後1歳に達するまで（通常、生後5カ月から生後8カ月に達するまで）に接種します。

④ 接種後の経過と副反応

接種後10日頃に接種したところに赤いポツポツができ、3週頃に腫れと周囲の赤みが強くなります。4～6週後には最も強くなり、膿がたまることもあります。2カ月を過ぎると反応はおさまってきて、3～4カ月頃にはかさぶたもとれ、瘢痕を残すだけになります。これは異常反応ではなく、BCGワクチン接種によって抵抗力（免疫）がついた証拠です。包帯をしたり、バンソウコウを貼ったりしないで、そのまま清潔を保ってください。自然に治ります。ただし、3カ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医療機関を受診してください。

副反応としては、接種をした側の脇の下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大きく腫れたり、また化膿して自然にやぶれて膿が出る場合があります。副反応かもしれないと思ったときは接種医に相談してください。

⑤ 接種後の反応が早く出た場合

まれに接種後1日ないし5日以内に接種した部位の針痕が赤く腫れ、また一部に膿をもつような反応を起こすことがあります。これをコッホ現象といいます。この反応自体はその後すみやかに治まってくるので心配はありません。ただ、お子さんが結核菌の感染を受けている可能性があります。本当に結核菌に感染しているか調べるために精密検査を受ける必要があります。コッホ現象がみられた場合には、接種を受けた医療機関を受診してください。集団接種の場合には、市区町村の予防接種担当課に相談してください。



BCGワクチン接種後の正常な経過例

接種後
2週



接種後
4週



接種後
6週



接種後
4カ月



コツホ現象の経過例

接種後
2日



接種後
7日



●コツホ現象がみられたら……………

お子さんが結核に感染しているかもしれませんので、個別接種の場合は、接種した医療機関を受診してください。集団接種の場合は、市区町村の予防接種担当課に相談してください。

写真提供：公益財団法人結核予防会



日本ビーシージー製造株式会社

2020年10月作成 PIDB011302-BTATB